

平成27年11月 東京地区百貨店売上高概況

平成27年12月18日

I. 概況

1. 売上高総額	1,461億円余
2. 前年同月比	0.2% (8か月連続プラス)
3. 店頭・非店頭の増減	店頭-0.1%(89.6%) : 非店頭2.8%(10.4%) ()内は店頭・非店頭の構成比
4. 調査対象百貨店	13社 25店 (平成27年10月対比±0店)
5. 総店舗面積	857,392㎡ (前年同月比:0.3%)
6. 総従業員数	19,065人 (前年同月比:-0.5%)
7. 3か月移動平均値	4-6月 11.5%、5-7月 8.1%、6-8月 6.4%、 7-9月 6.1%、8-10月 6.1%、9-11月 3.9%

[参考] 平成26年11月の売上高増減率は0.3%

【11月上の特徴】

- (1) 天候不順や土曜日1日減などの影響を受け、入店客数は1.5%減と伸び悩んだものの、総額では0.2%増を確保して8か月連続のプラスとなった。
- (2) 主要5品目は、気温が高く推移したことで重衣料が伸び悩み衣料品が苦戦。家庭用品も前年に届かなかった。一方、身のまわり品(+3.7%)と雑貨(+6.9%)が8か月連続で前年を確保し、食料品(+0.4%)も厳しい環境下、3か月連続プラスと健闘した。
- (3) 細分類では、これまで好調を持続した紳士服(-5.5%)が8か月ぶりにマイナス、婦人服(-5.3%)もほぼ同水準の結果となった。半面、化粧品(+23.8%)が8か月連続で2桁増を記録したことに加え、子供服(+3.5%)が5か月、美術・宝飾・貴金属(+5.8%)も8か月連続のプラスとなるなど好不調が入り混じる結果となった。また、菓子(+1.5%)、惣菜(+1.8%)も安定した実績を残した。
- (4) 個別商材では、天候条件からコートやロングブーツの動きが鈍かったが、防寒小物で温度調整する傾向が見られ、マフラーや手袋、ストールなどは堅調だった。また、健康志向の高まりから、ランニングシューズやゴルフ用品などスポーツ関連が好調。おせちやクリスマスケーキ、歳暮ギフトは早期受注体制を活かしネット中心に順調な滑り出し。
- (5) 12月も引き続き気温が高めに推移しており冬物商材が苦戦する中、15日現在1%弱の減で推移。今後の冷え込みと歳末商戦の追い上げに期待がかかる。

【要因】

- (1) 営業日数増減 30.0日 (前年同月比±0.0日)
- (2) 入店客数増減 (回答店舗数で見る傾向値/前年同月比/有効回答数18店舗)
①増加した:4店、②変化なし:6店、③減少した:8店
- (3) 11月歳時記(七五三、歳暮、クリスマス・迎春関連)の売上(同上/有効回答数12店舗)
①増加した:0店、②変化なし:9店、③減少した:3店

東京地区百貨店 売上高速報 2015年11月

	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率(%)
総 額	146,190,352	100.0	0.2
紳士服・洋品	12,924,713	8.8	-5.5
婦人服・洋品	26,076,130	17.8	-5.3
子供服・洋品	2,387,335	1.6	3.5
その他衣料品	2,507,272	1.7	-6.4
衣 料 品	43,895,450	30.0	-5.0
身のまわり品	19,481,203	13.3	3.7
化粧品	10,957,972	7.5	23.8
美術・宝飾・貴金属	9,425,021	6.4	5.8
その他雑貨	5,555,274	3.8	-14.5
雑 貨	25,938,267	17.7	6.9
家 具	1,671,955	1.1	0.0
家 電	1,531,509	1.0	4.8
その他家庭用品	4,680,743	3.2	-5.7
家 庭 用 品	7,884,207	5.4	-2.6
生 鮮 食 品	6,462,824	4.4	-2.7
菓 子	10,147,023	6.9	1.5
惣 菜	8,167,625	5.6	1.8
その他食料品	14,928,075	10.2	0.3
食 料 品	39,705,547	27.2	0.4
食 堂 喫 茶	3,132,216	2.1	-0.4
サ ー ビ ス	2,091,987	1.4	-15.3
そ の 他	4,061,475	2.8	19.2

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。

本統計には消費税は含まれておりません。

対前年増減(-)率(%)

商 品 券	4,453,877 千円	-5.3
従 業 員 数	19,065 人	-0.5
店 舗 面 積	857,392 m ²	0.3

営 業 日 数	30.0 日	前年	30.0 日
---------	--------	----	--------

Ⅱ. 商品別の動き

主要5品目では、身のまわり品と雑貨が8か月連続、食料品が3か月連続のプラスとなった。また、衣料品が2か月ぶり、家庭用品が8か月ぶりのマイナスとなった。その他の品目は、化粧品、美術・宝飾・貴金属、惣菜が8か月連続、子供服・洋品が5か月連続、菓子、その他食料品が3か月連続のプラス、家電が3か月ぶりのプラスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
総額	0.2	—	8か月連続プラス
紳士服・洋品	-5.5	-0.5	8か月ぶりマイナス
婦人服・洋品	-5.3	-1.0	2か月ぶりマイナス
子供服・洋品	3.5	0.1	5か月連続プラス
その他衣料品	-6.4	-0.1	2か月ぶりマイナス
衣料品	-5.0	-1.6	2か月ぶりマイナス
身のまわり品	3.7	0.5	8か月連続プラス
化粧品	23.8	1.4	8か月連続プラス*
美術・宝飾・貴金属	5.8	0.4	8か月連続プラス*
その他雑貨	-14.5	-0.6	4か月連続マイナス*
雑貨	6.9	1.2	8か月連続プラス
家具	-0.0	0.0	4か月ぶりマイナス
家電	4.8	0.0	3か月ぶりプラス
その他家庭用品	-5.7	-0.2	8か月ぶりマイナス
家庭用品	-2.6	-0.1	8か月ぶりマイナス
生鮮食品	-2.7	-0.1	4か月ぶりマイナス*
菓子	1.5	0.1	3か月連続プラス*
惣菜	1.8	0.1	8か月連続プラス*
その他食料品	0.3	0.0	3か月連続プラス*
食料品	0.4	0.1	3か月連続プラス
食堂喫茶	-0.4	0.0	3か月ぶりマイナス
サービス	-15.3	-0.3	5か月連続マイナス
その他	19.2	0.4	4か月連続プラス
商品券	-5.3	-0.2	9か月連続マイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化した。

お問い合わせは、日本百貨店協会 森・関まで
 TEL 03-3272-1666 ホームページアドレス <http://www.depart.or.jp>